

良質乳出荷農場 表彰



左から 橋村さん、井上さん、折笠会長、白木常務、明歩谷さん、高橋さん

CONTENTS

- 田井博行氏が「農林水産大臣賞」受賞
鶴居村タンチョウフェスティバル ————— 1
- 酪農振興会「酪農祭」/釧路管内酪農セミナー — 2
- 酪農実習体験・感想文 ————— 3～7
- 辞令発令 / 新採用職員の紹介 ————— 8
- 普及センターだより ————— 9
- JA北海道大会パネルディスカッション — 10～11
- JAグループ通信 ————— 12
- 理事会報告 / 生乳生産実績 / 退職者 ————— 13



第31回 鶴居村タンチョウフェスティバル
JA2MP（ジェイエイジャンプ）の推進でサポーターづくり

● 田井 博行 氏が「農林水産大臣賞」受賞!!



受賞した田井博行氏（音別自宅前にて）

農林水産省の平成29年度農業委員会等表彰式が3月7日、釧路総合振興局で行なわれ、釧路市農業委員会 農業委員の田井博行氏が農林水産大臣賞を受賞しました。

この賞は農地の利用最適化に実績があった農業委員会及び農業委員のうち顕著な功績があった人を表彰し、田井氏は音別地区で40年間にわたり農

業委員を務め、後継者対策、農地の有効活用等に尽力して参りました。

田井氏は「今回の受賞は、今迄支えて頂いた皆様方のおかげであり深く感謝申し上げます。国民の生活を守るため、安全な食料を生産するため、農業委員の役割は大きく、先を見越し、地域をあげて取り組んで参りたい。」と述べて頂きました。

● 異業種交流で「根釧牛乳」のおいしさをPR!!

～鶴居村タンチョウフェスティバル～



手前側JA青年部、奥側商工会青年部

2月11日、鶴居村総合センター前庭で、第31回鶴居村タンチョウフェスティバルが開催されました。

多くの来場者で賑わう中、JA青年部鶴居支部は、根釧牛乳の無料試飲を実施し、松下雅幸支部長は、「今回初めて鶴居村商工会青年部と合同で地場産牛乳をPRしました。今後も協力し乳製品の消費拡大のため活動していきたい。」

JA女性部鶴居支部は、「豚汁」を販売、館山順子支部長は、「あつ



女性部員手作りの「豚汁」を販売

あつの美味しいうちに食べてもらいたい一心で作った豚汁は、お客様からも好評です。」と話して頂きました。

JA職員によりJAスマホアプリ「JA2MP（ジェイエイジヤンプ）」の普及推進運動を実施し、無料アプリをダウンロード、チェックインして頂いたお客様へ粗品（ゆめぴりかパック米等）を贈呈しました。今後もイベント等で推進運動を展開し、北海道の食や農のサポーター（仲間づくり）へと繋げて参ります。



酪農振興会「酪農祭」開催

～講演会及び良質乳出荷農場を表彰～

良質乳出荷表彰農場

(体細胞数の部)

最優秀賞	鶴居	(合)	橋	村	農場
優秀賞	音別	田	井	克	農場
優秀賞	幌呂	明	歩	谷	農場
努力賞	鶴居	(農)	高	橋	農場
努力賞	音別	中	川	浩	農場

(生菌数の部)

最優秀賞	白糠	野	上	敏	農場
優秀賞	鶴居	井	上	元	農場
優秀賞	幌呂	明	歩	谷	農場



講師：竹内 未来 氏

2月21日、鶴居村総合センターで当JA酪農振興会主催の「酪農祭」が開催されました。組合員及び関係者合わせて81名が参加し、北海道ひがし農業共済組合 釧路西部事業センター 鶴居家畜診療所



日獣実習生も参加

竹内未来診療課長補佐を講師に迎え、「哺乳牛の管理」と題し講演が行なわれました。良質乳出荷農場表彰式では、平成29年1月から12月出荷乳量に対する体細胞数・生菌数が優秀な8農場が表彰されました。

テーマ「農場で問題となる蹄病と乳房炎を考える」

～釧路管内酪農セミナー～



講師：樋口 豪紀 氏

2月8日、鶴居村総合センターで釧路農協連主催による「釧路管内酪農セミナー」が開催され、管内の農業者・各関係者計68名が出席しました。セミナーでは、酪農学園大学獣医学部教授樋口豪紀氏が講師となり、

①「ウシの蹄病はなぜ起こるのか」く予防と対策の基本的な考え方 ②「ウシの乳房はなぜバイキンに負けるか？」く乳房の免疫と乳房炎防除について学び有意義なセミナーとなりました。

※2月14～23日、日本獣医生命科学大学の2年生13名が来所し、各農場へ実習に入りました。
実習を終えた感想文を2回に分けて報告します。

受入先・千葉喜好農場



隅田 伊織 さん

私は10日間の実習を終えて酪農の辛さと、また同時に跡継ぎ不足の現状を知った。

朝は4時に起きて支度をし、マイナス何十度という所で、搾乳やフン拾い等を毎日続けるのは辛かった。搾乳では牛にけられたこともあった。

搾乳後には、牛舎のフン拾いだ。これが一番精神的にも、肉体的にもしんどかった。フンはかちかちに固まり、なかなかシャベルが通らず拾うことができなかった。他の作業員の人の迷惑になっているだろうと

思うと申し訳なさでいっぱいになった。

そしてそのフン拾いは40mほどの長さの牛舎でやるため、非常に気が滅入った。この牛舎は搾乳牛を飼育しているところ、他に育成牛舎があり、それでもフン拾いとエサやりをする。私はこれだけの作業しかしていないが、農家の人は他にもたい肥をたい肥舎にトラクターではこんだり、サイレージャ、乾草を運ぶといった仕事をしていて、酪農家は相当きつい職業だなと思った。

受入先・齊藤和弘農場



土田 瑞穂 さん

私はこの10日間大変貴重な体験をさせて頂きました。主に私が行った作業は搾乳と哺乳牛のミルクやり、寝わらの交換などです。

搾乳では、最初の何日かはデ IPPING とタオルでの拭き取りのみを行いました。

この間に従業員の方のミルカー装着までの過程や全体の流れをある程度覚えることができました。実際の搾乳は実習4日目で実践できました。ミルカーの装着は、牛が急に脚を上げたり、乳首同士が近すぎて取りつけにくいなど、見ていた時の予想とは違って大変なことがわかりました。一番難しかったのは、前搾りで、手でなかなか搾れないことが多々ありました。

私が実習させて頂いた齊藤農場では、ミルキングパーラーが導入されてお

り、一度ミルキングパーラーを見てみたかったということもあり、実際に目にした時にはとても感動しました。ミルキングパーラーは作業員の移動距離を短くするのに適していることがわかりました。

哺乳牛では、下痢防止のために炭を入れたり、成長促進のための粉を入れたりなどただミルクを与えているだけではなく様々な工夫がされていることがわかりました。哺乳中のミルクの飲みっぷりと吸う力の強さに大変驚きました。

今回の実習で、私は多くの方にお世話になりました。作業中、作業方法や質問などに真摯に教えて下さった農場の方々や受入れて下さった齊藤さんご家族のお気遣いのおかげで私はより充実した10日間を過ごすことができました。今回



の北海道での実習を将来のために生かしていきたいと思います。この実習に参加してよかったと思いました。ありがとうございます。

受入先・松下雅幸 農場



高澤 彩花 さん

私は今回の実習に参加して充実した10日間を過ごす事が出来ました。初めて来た時は、寒冷環境に慣れることが出来るのか、実習先の農家の方々はどんな人達なのか、10日間やっていくのか不安でした。しかし、着いた時から温かく迎えて下さり「あやちゃん」と呼んでもらって徐々に不安を

解消することが出来ました。また、小さい子供たちとも打ち解けることが出来たので良かったです。

搾乳では夏に経験していたものの、道具の使い方やミルクのつけ方など基本的なことを忘れていて最初の頃は全く動けませんでした。作業に慣れてもミルクを一発で4つ全ての乳頭につけられなくて、それに加えて乳頭が小さくて左右が交差していたり牛が動いて蹴ったりするともっと時間がかかってしまいました。そんな迷惑がかかる状態の私でも農家や従業員の方々は、優しく丁寧に教えて下さってとても嬉しかったです。

また、作業だけでなく他の農場のロータリーパーラーや搾乳ロボットを見学させて頂いて貴重な体験をすることが出来ました。

ロータリーパーラーでは動いている様子を見られて本当に嬉しかったです。32頭もの牛を乗せて機械が動いていてすごいと思いました。

搾乳ロボットは17年前から使っていると聞き、そんなに昔から搾乳ロボットがあったことに驚きました。どちらの農家の方々もお忙しい中で機械の説明をしてくれたり質問に答えてくれたりして本当にありがとうございました。もちろんこんな機会をつくってくれた松下さんにもすごく感謝しています。家庭での料理がバリエーション豊富でどれも美味しくてもう食べられないと思うとても悲しいです。

また、酪農祭に出た時は、たくさんの方々がいる中で学生が参加して少し緊張しました。子牛の管理についての講演では専門的

で実用的な内容で聞いていてすごく面白かったです。その後の懇親会もとても楽しかったです。

3日目には牛の第四胃変異の手術が見られて牛にとって良くないことですが貴重な体験をすることが出来ました。動物の手術を見るのは初めてで人間でもドラムで見るぐらいなので、どんな感じなのか非常に興味がありました。実際に見るとメスを入れたと思われる開き口が大きくて、中からたくさん血液が出ていてとても衝撃的でした。手術中でもいろんな質問を獣医の方に答えて頂いて少し惑いはありましたが、嬉しかったです。

松下農場の方々を中心にたくさんの方々にお世話になり、たくさんお話を聞きたくさん質問に答えて頂きいろんな体験をさせて頂



き、ありがとうございます。たじや足りないくらい感謝の気持ちでいっぱいです。今回の実習に参加出来て本当に良かったです。この実習を通して北海道のことがもっと好きになりました。大学でも酪農についての知識をさらに広げていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

受入先・(有)協栄農場



荻原 周子 さん

私は、協栄農場さんにお世話になりました。最初は不安で、やっていけるのか心配でした。初めに挨拶をした時、とても明るい奥さんで社長も気軽に話しかけ

てくれたので、少し安心しました。

2日目からの実習は毎日新しい発見や学びができ、とても為になりました。獣医さんの往診や四変の音を聞いたり、血乳をみたりと初めての体験ばかりでした。本州にはない、北海道ならではの水のしほれは、お湯をかけてもなかなかとれず、管の中までしばれてました。方言も従業員の皆様にいくつか習い、間違った解釈をしないように気をつけました。作業だけでなく、休んでいる間の会話からも学べることは多く、普段の会話をあそこまで真剣に聞いたのは久しぶりくらいでした。

お家でもとても良くしていただき、居心地がよかったです。あんなに仲の良い家族はなかなかいないと思います。たくさんお話もし

てくれて、たくさん笑って、最初の不安はどこにいったのかと思いました。個人情報であろう協栄農場さんの情報もかくさずみせてくれたり、提供してくれたりもして、勉強になる情報もありがとうございました。

会社の雰囲気もとても良く、皆様がいろいろな話をたくさんしてくれて、充実した実習を送ることができました。10日間というのはあつという間でもとても名残り惜しいです。北海道の寒さは特に苦にはならず、むしろおいしい食べ物がたくさんあるのでうれしい環境だと思いました。ただ1つ悔いなのは分娩が見られなかったことです。こればかりはタイミングなのでしかたないですが見たかったです。それでも本当に楽しくて、将来何をするかまだ決まっていますが、

酪農をやりたいと思ったら北海道に來たいと思いました。何から何までお世話になりました。ありがとうございました。

受入先・(株)夢牧場



秋田 朋子 さん

私は今回の実習に参加し、初めて冬の北海道に来て、酪農を体験しました。寒さに対しては、学校の先生が言っていたほど寒くなく、夕方の作業ではジャンパーの袖をまくっても寒いとは感じませんでした。

しかし、朝の作業時は牛舎の中に霧のようなものがかかっていたり、扉側の牛糞や飼槽の水、入れ替えた



牛のひげが凍っていたりと、関東の牧場ではなかなかにみることができない光景であると思いました。

実習は主に飼槽掃除・エサよせ・牛床掃除・乳拭き・哺乳を行いました。飼槽掃除・エサよせ・牛床掃除では、水分の多いサイレージの掃除に時間がかかってしまったので、少し反省しています。また、哺乳では、初めてスキットファイバーや電解質を入れたミルクを作りました。これらのように酪農家さんそれぞれにより、異なった工夫があることを知り、子牛の健康が守られ後継牛ができていくのだと思いました。

毎日の作業以外で特に印象に残ったのは、イージーブリードを牛に挿入したことです。今までに他の牧場で実習をさせていただいたときに、人工授精師の方が

入れているのを見たことはありましたが、自分でやるのは初めてでうまく出来るか不安でした。いざ入れてみると、どのくらい入っているのかよくわからずとまどってしまったが、牧場の方が優しく教えてくださり、無事にイージーブリードを入れることができました。

知らない土地で、初めて会う人と10日間生活を共にすることに對して始めはとても不安と思っていましたが、酪農家のみなさんが明るく、気さくに話しかけてくれたり、ご飯の支度など、なにからなまでに世話をしてくださり安心してこの10日間を過ごすことができました。

短い間でしたが、温かく迎え入れてくださった夢牧場さんありがとうございました。

受入先・松井俊治農場



中浦 滉大 さん

私は松井牧場で10日間、酪農の体験実習をさせていただきました。北海道の寒さに耐えられるかとても不安でしたが、牛舎はウシの体温により外の気温よりも温かくなっていることに驚きました。しかし、この気温ではウシにとっては暑いため換気が必要だと教わりました。

まず、初日にウシの分娩を見学することができました。この分娩は予定よりも一週間遅れており、結果死産となってしまいました。難産の原因として産道が狭

いことやへその緒が切れるタイミングなどがあることを知り、さらに、胎仔をむりやり引っぱることはあまり良いことではないと教わりました。なぜなら、むりに胎仔を引っぱったことにより母体の産道が傷つき、母体までも危険にさらしてしまうからです。そのため、自然分娩が一番の理想だと教わりました。

次に搾乳についてです。私が体験した松井牧場では、搾乳するウシは70頭ほどで、ミルクを一頭一頭ウシのもとへもっていくパンプライン方式でした。このとき、搾乳する順番がウシの並んでいる順ではなくバラバラに行っていました。この理由は、ウシごとに乳の出が違うため、一番効率の良い順番で行っているそうです。私は、10日間搾乳を見学していましたが



全く順番は覚えられませんでした。農家の方たちは個体ごとの乳の出やよく暴れるウシ、大人しいウシなどをしっかり把握していてすごいと思いました。また、搾乳はチームでやっていて、一人欠けると効率が悪くなるとおっしゃっていて協調性の大切さも学びました。

また、ミルクングパーラー方式とロボット搾乳の農家さんのところへ連れていってもらいました。それぞれの方式には、長所・短所があり、どの方式を取り入れるかは、それぞれの農家の飼養頭数や目指しているものによって変わってくるそうです。

他にも、作業を効率化したり、利益を増やしたりするためにTMRセンターの設立を検討したり、遺伝的能力の高い子牛を買った

りしていることを知りました。現状維持をしているだけでは将来必ず後退する。常に前進していかなければならないと学びました。

この実習で私は、授業では学ぶことのできない、現場で体験しないと分からない知識を身につけることができ、貴重な経験になりました。

受入先・(有)鶴翔



佐藤 玄弥 さん

私は今回幌呂地区にある鶴翔さんで実習させていただきました。鶴翔での主な仕事としては、牛床に落ちているフンを除去したり、フンを集める事や、搾乳に

おけるミルクカー付け、牛をパーラーまで運ぶ役割の牛追い、それと、水飲み場の中にあるゴミをすくう事でした。

鶴翔は、とても広い土地があり、他にも病気になった牛を治療する為の建物があったり、子牛達を育てる為だけの建物、カーフハッチ、乾乳になっている牛や、足にケガをしている牛達の建物があつたり、堆肥を作る為の建物、エサを保管する為の建物があつた。

牛の種類もホルスタイン・ブラウンスイス・ジャージーがあり、種類によって様々な個性があり、赤と白のホルスタインや草色のようなブラウンスイスもいて、黒毛和種とホルスタインのF1の子牛もいた。時に発情行動をとる牛もあり、その中で発情している牛は上に乗っかっている牛

ではなく、下にいる牛であるという事も教えて頂けた。

さらに、新しく自動給餌機があり、1台何千万すると言っていた。やはり、機械を新しく買うには、多額の資金が必要であり、なおかつ補助金を受けないと不可能である。

酪農祭にも参加させて頂く事もでき、哺育の管理という貴重な講演を聞く事ができたり、懇親会では、他の企業の方とお話をさせて頂いただけたりした。

この実習はとても有意義かつ勉強になり、自分の身をもって色々な事を体験できた事を嬉しく思います。また北海道に来て実習したと思います。



辞 令 発 令			(平成30年 4 月 1 日付)
氏 名	新 所 属	旧 所 属	
石 動 稔	金融共済部 部長兼白糠支所長	金融共済部 部長	
倉 内 佐知子	白 糠 支 所 購買課白糠給油所係	購 買 部 燃料課鶴居給油所係	
松 本 典 子	音 別 支 所 金融共済課金融共済係兼総務係	白 糠 支 所 金融共済課金融共済係兼総務係	
手 塚 恵	白 糠 支 所 金融共済課金融共済係兼総務係	白 糠 支 所 金融共済課金融共済係	
北 村 千 春	音 別 支 所 金融共済課金融共済係	音 別 支 所 金融共済課金融共済係兼総務係	

新 採 用 職 員 の 紹 介



むら い かい と
村 井 海 渡

- 所属部署／白糠支所 金融共済課 金融共済係
- 年 齢／19歳
- 出 身 地／札幌市
- 出 身 校／J A カレッジ（H30年卒）
- 趣 味／映画鑑賞
- 特 技／茶道
- 組合員の皆さんへ一言／今まで農業に触れてきたこともほとんど無く、釧路に来たこともありませんでした。農協学校の経験を活かして組合員の皆様のために頑張りますので、よろしくお願い致します。



えん どう ゆう と
遠 藤 悠 人

- 所属部署／購買部 燃料課 鶴居給油所係
- 年 齢／19歳
- 出 身 地／京極町
- 出 身 校／J A カレッジ（H30年卒）
- 趣 味／カメラ、ドライブ
- 特 技／バドミントン
- 組合員の皆さんへ一言／今年からJ A くしろ丹頂で働かせていただく遠藤悠人です。一日も早く慣れて組合員の皆様のために頑張りますのでよろしくお願い致します。



さかがみ しょうま
坂 上 奨 真

- 所属部署／購買部 生活課 生活係
- 年 齢／18歳
- 出 身 地／釧路市
- 出 身 校／釧路明輝高校（H30年卒）
- 趣 味／スポーツ、釣り
- 特 技／バスケットボール
- 組合員の皆さんへ一言／当組合で働くことになりました坂上奨真です。まだまだわからないことばかりですが、先輩から教えていただくことの一つ一つを大切に、一日も早く仕事を覚え、当組合に貢献出来るようになる事を目標として頑張りますので、よろしくお願い致します。

土壌凍結の実態と牧草への影響

雪が溶けて畑が顔を出してくる春、「牧草は枯れていないだろうか」「いつごろトラクターが入れるだろうか」と気になる方も多いと思います。

これらを左右する要因の一つが土壌凍結です。

普及センターでは平成27年から管内数カ所で土壌凍結管（写真1）を設置して凍結深を測定しています。



写真1 土壌凍結管
（左：管の内部、右：外見）

今回は、そのうちA・B2地点の結果をお知らせします。

1 土壌凍結とは

土壌凍結とは、土壌中に含まれる水分が凍る現象です。

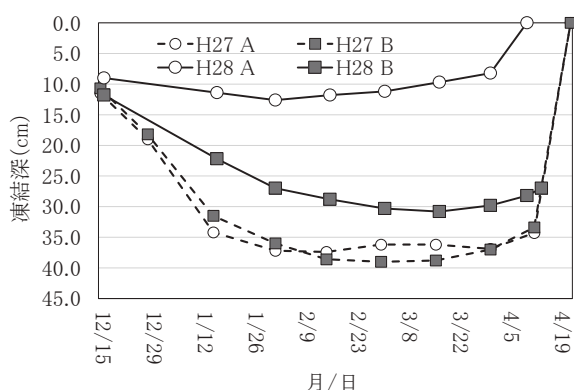


図1 土壌凍結深の推移

2 土壌凍結の実態

土壌凍結が発達するのは日平均気温が0℃以下で積雪深が20cm以下に限られます。

つまり、積雪深が20cmを超えると、いかに少雪寒冷な根釧地方でも土壌凍結は進みません。

平成27年～28年（以下、27年）と平成28年～29年（以下、28年）の調査結果を図1に示しました。

最大凍結深を見ると、27年は両地点とも40cm弱でしたが、28年は地点間に差があり、A地点は12cm前後、B地点は30cm前後でした。

3 牧草への影響

差が見られた要因は、28年のA地点の降雪が12月初旬にまとまっており、そのまま積雪状態で経過したためと考えられます。

近年、高栄養牧草として注目されているペレニアルライグラス（PR）は土壌凍結に弱いと言われています。

B地点は27年にPRを主体としてチモシー、メドウフェスク、シロクロローバーを混播した放牧地（表1）です。土壌凍結が40cm弱と深かったせい、翌春にやや冬枯れが見られました（写真2）。

このように、PRには冬枯れの可能性がありますので、融雪後の状況を確認し、必要なら追播を考慮しましょう。

表1 B放牧地の播種概要

草種	kg/10a
PR	1.7
MF	0.6
TY	0.3
WC	0.3

MF：メドウフェスク

TY：チモシー

WC：シロクロローバー

4 今季の途中経過と春作業に向けて

今季は積雪が少ないため2月16日現在の土壌凍結深は約40cmと深くなっています。

土壌凍結深が深くなると、春の地温上昇が鈍くなり、土壌の乾きが進みません。その結果、農業機械が入れる時期が遅くなり作業が遅れます。

その場合は、ほ場作業以外の作業を先に実施するなど、効率的な作業日程を組みましょう。



写真2 PR混播放牧地越冬後の様子
手前と右奥に多少冬枯れが見られる



JA北海道大会実践フォーラム パネルディスカッション

テーマ「協同の力で実現する新規担い手倍増に向けて」

「協同の力で実現する新規担い手倍増に向けて」と題したパネルディスカッションの内容を連載でご紹介します。



小林 国氏

北海道大学 准教授

新規参入者支援の話に入りますが、宮下さんにJAけねべつがなぜこんなに多くの新規参入者を受け入れることができたのかご自分の経験も踏まえながらご意見を頂けますか。

宮下 道男氏

栗山町農業振興公社
就農支援アドバイザー



計根別農協さんは平成27年から自ら出向く方針に転換して、新農業人フェア等に参加されています。やはり農業に関心がある方に農業や地域の良さを理解して頂くことが重要だと思います。けねべつではその結果、たった5年間で13戸の方が新規就農しています。私どもの栗山町でも平成25年より新農業人フェア等に参画

しており、その結果、たった4年間で12戸の新規参入農家を取り込みました。出向く場合は、農業に関心がある方に対して、しっかり農村生活・農業を説明できる説明者の育成が大事です。

小林准教授 イベントに出向いてもブースが閑散とするといった話もよく聞きます。正直、計根別という地名は認知度も高くないと思いますが、何が農業に関心のある方を引き付けていると思われますか。



中瀬 満氏

JAけねべつ 参事
(事例発表者)

担当している職員の熱意もあると思います。あとは、必ずしも新規就農だけでなく、例えば酪農を体験したいという方には、一部助成策を講じながら一回来てみたらと言います。いきなり就農でなく、相談から始める。すると、新規参入を希望する方々の中で、計根別の取り組みが段々と広まって、結果として情報が多く集まるのかなと感じます。

小林准教授 宮下さんは全道、全国で就農希望者の話を聞く機会が多いと思いますが、中瀬参事のお話を受けて、大事と思うポイントはありますか。

宮下氏 やはり、住環境も含めた受入側の体制が整備されている地区には紹介しやすいです。就農を希望される方は安心してその地域へ行きたいと思いますし、それに加えて、親身になって説明できる方が説明員として来ていることが重要なのではないかと思います。

小林准教授 齊藤さんにお聞きしたいのですが、受け入れ側として整備しなければいけない点について何かお考えはありますか。



齊藤 和弘氏

北海道農協青年部協議会 顧問

1か月くらい前に、新しい方を従業員として迎えるに当たり、人材紹介サイトに連絡したところ、社会保障や休みの整備が整っているところは人気が高いと言われました。お給料が高いだけでなく、しっかりした保障がある安心感が重要だと思います。人を雇用することがどういうことなのか、経営者として学ばせて頂く経験になりました。

小林准教授 近江さんは道外から多くの方を受け入れられておりますけれども、都市から人を呼んで活動をされる中で、今思うこと、伝えたことがあれば、お聞かせ願えますか。

近江 正隆氏

株式会社ノースプロダクション
代表取締役

東京では命の糧は一つも生み出されません。東京にいますと、北海道の農村、農家さん

たちを自分事と考えるような実体験もなく、イメージが湧きません。そこでまずは家族のような繋がりを作るという意味で、ホームステイを行っております。

昨年十勝にホームステイで来られた大阪の高校生が、来年池田町の酪農家さんに就職する予定です。農業、農村、農家さんたちが持つ力には、何か人を揺り動かす大事なものがあって、都会の若者たちはそこに飢えています。そこに触れさせることで、将来的な担い手に繋がれると感じます。

小林准教授 齊藤さんもホームステイの受け入れを多く行われておりますが、やはり担い手倍増に繋がる一つのきっかけになるものとお考えですか。

齊藤顧問 先日、小林先生からお願ひされました。大学生をホームステイに受け入れました。

その子も、最初はもじもじしていましたが、終わる頃には、はきはきと凄く楽しそうにしていました。こういう体験も踏まえた上で、結果的に農業者になることだけが全てではないと思いますが、将来に繋がる取り組みであると僕は感



じます。

小林准教授 農業経営者を増やすには、家族経営や経営体も大事ですが、それ以外の多様な農業の担い手の形を増やし、定着させる必要もあると思います。近江さんからその点について一言頂けますか。

近江代表 皆さんご存知のIT大手企業に勤める20〜30代の方が、今私が住む浦幌町に10〜20人来ていますが、彼らは10年後、20年後、AIやロボットが進化すると東京で仕事が少なくなり、もしかしたら自分の食べるものは自分で作るという根本的な考えに立ち戻るのではないかということを考えています。そうなると、彼らは本業を持ちながら、副業として地域で仕事を探し始めます。既に大手企業は副業を認め始めており、この流れに、地方が戦略的にメスを入れていくことが、農村地域に人が住み続けていく一つのモデルづくりに繋がると考えております。

小林准教授 経営者だけでなく、色々な形で酪農や地域の産業に関わる仕組みも必要だと思います。これからの北海道農業、農村の担い手とは、計根別の地域から見ると、どのような人たち、関係が想定されますか。

中瀬参事 私が思う担い手づくりの基本は、仲間をどういう風に作っていくかということかと思ひます。農業に携わる方たちの仲間づくりが、

最終的には担い手の確保対策に繋がっていくのではないかと考えております。

小林准教授 今のお話を受けて、地域の担い手をどう考え、またそれをどう増やしていけば良いのか、石田参事に伺いたいと思います。



石田 健一氏
JA北海道中央会 参事

北海道では年間に600人程の方が新規就農しておりますが、そのうち、後継者・Uタ

ーンの新規就農者の方は、自分の親の経営があるので水田、畑作、酪農の経営体に入る方が8割を超えます。一方、外部からの新規参入者は、ここ3年の間1000人を超え、増加しています。農地などへの大規模な投資が難しく、投資額が500万円以下の方が3割であり、経営形態で言うと、野菜が5割弱という状況です。これは中々大きな課題でして、これから新規就農に捉われず、経営者以外に農業を色々な形で支える担い手を増やすという方向性も必要かと思ひます。



JAグループ通信

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。

JA北海道大会決議事項の実践やその時々のおピックスなど、組合員の皆様に定期的にお伝えします。

各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

JA北海道中央会

2月に、児童養護施設との

調理実習体験「おとなの食育」を開催しました。興正こども家庭支援センターと共催し今回で5回目。



高校卒業後一人暮らしをしても規則正しい食生活を送ってほしいという趣旨で実施しています。前半は札幌消費者協会札幌ポトフの会の吉田講師より、身体に必要な栄養素や食品選びの考え方を学び、後半は料理教室を開催。参加児童は「調理方法など、わからないことを学べてとても良い機会だった。」と感謝の気持ちを話してくれました。



JA北海道信連

JAバンクを広く知ってもらうと、3月の札幌ドームでのファイターズの試合にブースを出展しました。

当日は、春のキャンペーンへ応募された方にちよリスグッズを、JAバンクのアンケートに回答された方に試合の観戦チケットを抽選で贈呈する等、JAバンクのPRに取り組みました。

今後も、様々なスポーツとの連携・支援等を通じて、JAバンクのファンづくりに向けて取り組んで参ります。



ホクレン

社会・地域貢献活動「シーズ

プロジェクト」の一環として、

興正こども家庭支援センターとの共催で、児童養護施設などを巣立つ高校生たちを対象に「おとなの食育」もつと牛乳を飲もう！マナー講座」をホテルオークラ札幌で開催しました。北海道の酪農、牛乳・乳製品についてや、ナイフやフォークの使い方など基本的なマナーを学びました。（この取り組みは、2014年から継続して実施しており、今年で5回目になります。）



JA共済連北海道

数多く実施している地域貢献活動を広く知ってもらえるよう、ロゴマークを制作しました。

ロゴマークに描かれた日本地図とそこから生える新芽には、全国各地の活動が地域に根付くようにという思いが込められ、手を取り合いながら歩く「貢献」の文字は地域の皆さまとJA共済が支え合う姿をイメージしています。JA共済が展開する地域貢献活動はWEBサイトに「ちいきのきずな」で紹介しております。



JA北海道厚生連

組合員ならびに地域住民の皆様様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。

年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非ご一読ください。



理 事 会 報 告

2月定例理事会 平成30年2月27日(火)

報告事項

1. 専決事項及び諸会議について
2. 各委員会・諸会議等について
3. 1月末財務状況について
4. 事業の実施処理状況について

- 議案第6号 固定資産の取得について
 議案第7号 諸規程の制定について
 議案第8号 諸規程等の一部変更について
 議案第9号 FinTech企業等との連携及び協働に係る方針の決定について
 議案第10号 従業員に対する年度末賞与の支給について

付議事項

- 議案第1号 組合員の資格審査について
 議案第2号 出資の減口承認について
 議案第3号 融資の承認について
 議案第4号 平成30年度監査計画の策定について
 議案第5号 平成29年度畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業の承認について

その他協議事項

1. 平成29年度決算処理方針(案)について
2. 平成30年度事業計画(案)について
3. 当面の業務日程について

■平成29年度	生乳生産実績(2月)			
	月計乳量(kg)	2月前年比(%)	累計乳量(kg)	累計前年比(%)
J A くしろ丹頂	7,782,408.1	101.4	90,511,475.7	98.4
鶴居地区	2,804,802.8	105.4	32,501,766.9	102.7
幌呂地区	2,054,383.3	98.2	24,063,470.7	97.9
白糠地区	1,591,608.2	100.7	18,521,795.6	97.3
音別地区	1,331,613.8	99.4	15,424,442.5	92.4
管内計	40,918,057.1	101.6	483,003,894.2	99.1
(前年度管内計)	40,290,825.4		487,441,128.4	

大変お世話になりました。

福 士 哲 也

白糠支所 支所長
3月31日をもって退職しました。

佃 政 紀

白糠支所 家畜改良課家畜改良係
3月31日をもって退職しました。

編集後記
EDITOR'S NOTE

□ 2月11日に開催された、鶴居村タンチョウフェスティバルに当JA管理課で参加し、「JA2MP(ジェイエイジャンプ)」の普及推進運動を実施しました。初めての試みであったため、心配する部分も多々ありましたが、スマホを利用しているご来場の皆様方にアプリの説明などをしました。道内各地から来られた方々も多い中、ダウンロードし、チェックイン(当日会場が1日限定でチェックインスポットに登録)までして頂いた方は、この日の目標であった50名に達することができました。想像以上に興味をもって説明を聞いて頂いた皆様方に感謝し、これからも自分達でできる事を地道に続けて参ります。「道民と食と農でつながるサポーター550万人づくり」へ向け、皆様方のご協力をよろしくお願い致します。